

## 総合エネルギー統計検討会（第3回）

### 議事要旨

日時：平成29年6月16日(金曜日) 15時00分～17時00分

場所：経済産業省 別館9F 944会議室

#### 出席者

##### 【座長】

木船 久雄 名古屋学院大学 経済学部 教授

##### 【委員】(50音順)

安斎 浩幸 一般社団法人 セメント協会 生産・環境部門 統括リーダー

石田 博之 青山学院大学 社会情報学部 教授

河野 秀昭 電気事業連合会 業務部 副部長

神田 剛治 一般社団法人日本鉄鋼連盟 エネルギー技術委員会 委員  
(新日鐵住金株式会社 エネルギー技術部 エネルギー技術室長)

先名 康治 日本製紙連合会 技術環境部 専任調査役

佐々木 豪 一般社団法人日本ガス協会 企画部 計画グループ 課長

(谷口祐一) 一般財団法人 省エネルギーセンター 省エネ支援サービス本部  
代理 大國浩太郎 省エネ人材育成・ソリューションセンター 調査部長

手賀 幹雄 石油連盟 調査・流通業務部 調査・統計グループ長

富田 新二 一般財団法人石炭エネルギーセンター 情報ビジネス戦略部 部長代理

中田 俊彦 東北大学大学院 工学研究科 技術社会システム専攻 教授

藤井 康正 東京大学大学院 工学系研究科 原子力国際専攻 教授

茂木 和久 日本自動車工業会 環境委員会 運輸政策対応WG 主査

(トヨタ自動車株式会社 環境部 コミュニケーション室  
調査 G プロフェッショナル・パートナー)

**【オブザーバー】**

松坂 真史 国土交通省総合政策局環境政策課企画係長

**【資源エネルギー庁】**

小澤 典明 資源エネルギー政策統括調整官

田中 将吾 長官官房総合政策課戦略企画室長

友澤 孝規 長官官房総合政策課戦略企画室室長補佐

高橋 一美 長官官房総合政策課戦略企画室資源エネルギー調査専門職

**【事務局】**

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所

柳澤 明 計量分析ユニット 研究主幹

青島 桃子 計量分析ユニット 主任研究員

江藤 諒 計量分析ユニット 研究員

加藤 利哉 計量分析ユニット 研究員

## 議事概要

- 議事 1：検討会開催の背景について
  - 資源エネルギー庁から資料 1 で検討会開催の背景について説明。
- 議事 2：一次統計改訂に伴う見直し、国連フォーマットへの適応、及び捕捉性向上のための改善・計上について
  - 事務局から資料 2 で一次統計改訂に伴う見直し、国連フォーマットへの適応、及び捕捉性向上のための改善・計上について説明し、その後議論が行われた。出席者からの意見は以下のとおり。
  - ✓ 一次統計改訂に伴う見直しについて
    - 家庭の都市ガスの地域値推計方法については、2017 年 4 月より小売の自由化が始まったため統計方法は今後決めていくことになるが、ガス市場整備室等と調整して進めて欲しい。
    - 家計調査では誤差が出てくると思う。別の捕捉方法と組み合わせて統計を作成すべき。
  - ✓ 国連フォーマットへの適応について
    - データの精度をいかに向上させるかが、この国のインテリジェンスを表しているといえる。技術立国というからには、データの精度で世界をリードする必要がある。
    - エネルギーとは直接関係のない家計調査などからエネルギー消費量を推計しているが、そのような複雑なことと実際のエネルギー関連の統計を組み合わせ、よりデータの精度を向上させることが重要。
    - 改訂案では負の誤差を案分して、負の誤差が出ないようにしたとのことだが、統計を活用する人は情報としての精度がどの程度信頼できるかは、負値の誤差を見なければわからない。そのため、負値の情報を別に記載するなどした方が良い。
  - ✓ 捕捉性向上のための改善・計上について
    - 改訂案については特に異論はなく、農林水産業のエネルギー消費量を農林水産省の各種農林水産統計データ等に基づいて推計することとなった。
- 議事 3：再生可能エネルギー部分の改善・計上、表の追加作成・改善、標準発熱量・炭素排出係数の修正（報告事項）について
  - 事務局から資料 2 で再生可能エネルギー部分の改善・計上、表の追加作成・改善、

標準発熱量・炭素排出係数の修正（報告事項）について説明し、その後議論が行われた。出席者からの意見は以下のとおり。

- ✓ 再生可能エネルギー部分の改善・計上について
  - 太陽光発電について、FIT（電気事業者買い取り）分は把握できるがそれ以外の自家消費分は推計とのことなので、推計部分は別段にするなど分けた方がよい。
  - 将来の話ではあるが、電気自動車が増えてきた場合、運輸部門にそのエネルギー消費を計上するには実際の走行データが必要になってくる。その際は、国土交通省に電気自動車の走行データを把握できるような統計の作成を提言してもらいたい。
  
- ✓ 表の追加作成・改善について
  - 電源構成について、火力発電の発電効率を燃種によらず一定とみなしているが、天然ガスはコンバインドサイクルを使えば効率がいいので、燃種毎の効率に配慮すべき。
  - IEA のエネルギーバランス表と期間を合わせられるといいと思うが、暦年にするか、年度にするかで変わってくると思う。
  
- ✓ 標準発熱量・炭素排出係数の修正（報告事項）について
  - 標準発熱量の見直しは 5 年毎だと思うが、見直し期間が短ければ準備も大変であり、5 年位の実績を見れば変わっていることもわかるので、現行どおり 5 年毎の見直しがいいと思う。

今後更に意見があれば、適宜事務局に連絡していただくこととなった。

以上

お問合せ先

資源エネルギー庁 長官官房 総務課 戦略企画室

電話：03-3501-2096

FAX：03-3580-8426